

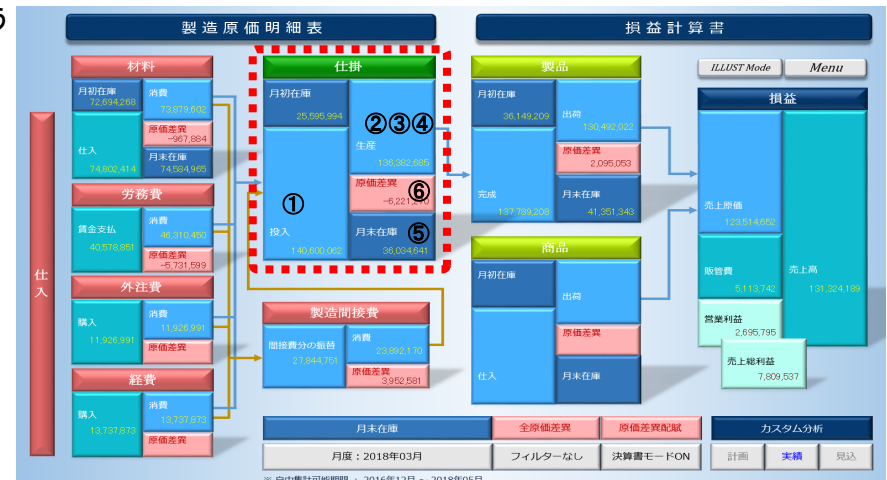
(6) 仕掛の計算(製品別計算)

- ① 4つの原価要素からの直接費明細と製造間接費の間接費配賦明細を、**製品別／工程別**の投入実績として纏める。
(「材料」「労務費」「外注費」「経費」の各「消費」から「仕掛」「投入」へ製品別／工程別計算)
 - 1) 「材料費」「労務費」「外注費」「経費」の製品別「投入」実績「数量」に各標準原価「単価」を掛けた「金額」を「投入」明細データとして作成する(自工程投入)
 - 2) 「製造間接費」の製品別「投入」「配賦値」に製造間接費部門「単価(レート)」を掛けた「金額」を投入明細データとして作成する(自工程投入)
 - 3) 前工程品の「次工程投入」あるいは部品の「再投入」実績「数量」に標準原価「単価」を掛けた「金額」を「投入」明細データとして作成する(前工程投入)(累加法)
 - ② 生産実績情報に標準原価単価を掛けて**製品別／工程別**生産高(製品製造原価)を求める。(「仕掛」「生産」から「製品」「完成」へ完成原価計算)
 - 1) 完成実績「数量」に標準原価「単価」を掛けた標準原価「金額」を「生産」明細データとして作成する
 - ③ 消費実績情報に標準原価単価を掛けて**製品別／工程別**消費出庫を求める。(「仕掛」「生産」から「仕掛」「投入」へ原価振替計算)(累加法)
 - 1) ①③の前工程品の「次工程投入」、部品「再投入」に対応する払出「消費」数量に標準原価「単価」を掛けた「金額」を「消費」明細データとして作成する
 - ④ その他の出庫実績情報に標準原価単価を掛けて**製品別／工程別**その他出庫を求める。(「仕掛」「生産」から「損益」「売上原価」)
 - 1) その他の出庫「数量」(棚卸増減・廃棄・売上他)に標準原価「単価」を掛けた「金額」をその他出庫明細データとして作成する
 - ⑤ 月末の**製品別／工程別**仕掛在庫が確定する(「仕掛」「月末在庫」を繰越)
 - 1) 期末の工程別仕掛在庫「数量」に標準原価「単価」を掛けた「金額」を月末在庫明細データとして作成する
 - ⑥ 原価差異が分かる。(「仕掛」「原価差異」から「損益」「売上原価」)
 - 1) 「投入」の原価材の実際「数量」と標準「数量」*1の差に標準「単価」を掛けた「金額」を原価差異データを作成する
- *1標準数量(原価材) = $\sum (\text{原価材の標準原単位} \times \text{製品生産実績数})$

SHINは「仕掛(製造)」a/cの表現方法に「修正パーシャル・プラン」という方法を採用しています。従って引出の「投入」に関して、原価材「単価」は標準単価、原価材「数量」は実際数量でデータが作られます。

一方、「仕掛」BOXの「原価差異」を除くその他の引出は、全て標準「単価」と「標準」数量で作られます。

勿論「仕掛(品)」自体は、原価材が投入される「器」として、その入出庫が貸借でバランス(一致)しているはずです。従って「仕掛」BOXの「原価差異」に表示されている内容は、原価材の標準換算の数量計と実際の使用数量の差に原価材標準「単価」を掛け合わせたものということになります(数量差異)。



(参考) コストフローによる原価計算の表現方法

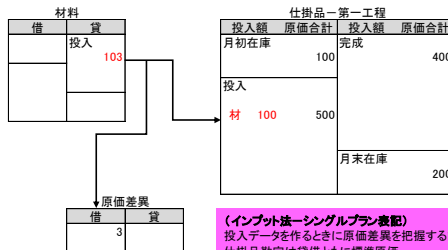
(1)「仕掛」勘定(製造勘定)の“単価”“数量”“金額”の表現方法

- 1) シングルプラン : 「仕掛」勘定の貸借ともに原価材の“標準単価”“標準数量”で表現する⇒従って「仕掛」勘定に原価差異は出ない
- 2) パーシャルプラン : 「仕掛」勘定の「投入」は原価材の“実際単価”と“実際投入数量”で表現する⇒従って「仕掛」勘定の原価差異は「単価差異」「数量差異」の合体
- 3) **修正パーシャルプラン** : 「仕掛」勘定の「投入」は原価材の“標準単価”と“実際投入数量”で表現する⇒従って「仕掛」勘定に原価差異は「数量差異」のみ

(2) 原価差異の把握タイミング

- 1) **インプット法** : 原価材を「仕掛」勘定の「投入」へ消費投入する時度原価差異を把握する
- 2) **アウトプット法** : 月末に原価材を「仕掛」勘定の「投入」へ消費投入集計し、これと「投入」以外の「仕掛」勘定の各引出の金額(標準金額)との差を原価差異とする

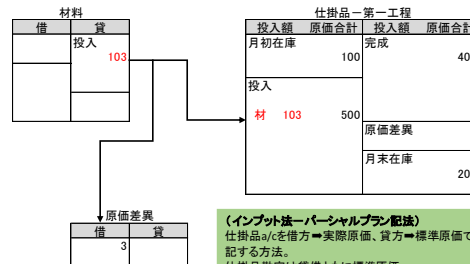
(インプット法－シングルプラン)



(インプット法－シングルプラン表記)
投入データを作るときに原価差異を把握する方法
仕掛品勘定は貸借ともに標準原価
⇒バックフラッシュ型生産管理は完成自＝投入時と見做してデータを作成するので、インプット法と考えられる

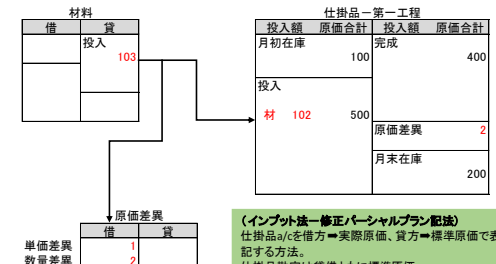
→ リアルタイム
--- 月次パッチ

(インプット法－パーシャルプラン)



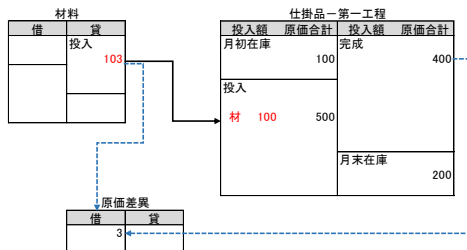
(インプット法－パーシャルプラン配法)
仕掛品a/cを借方⇒実際原価、貸方⇒標準原価で表記する方法。
仕掛品勘定は貸借ともに標準原価。
一般的にインプット法はシングルプラン、アウトプット法はパーシャルプランで表記する。

(インプット法－修正パーシャルプラン)



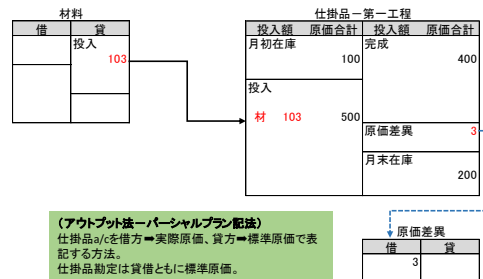
(インプット法－修正パーシャルプラン配法)
仕掛品a/cを借方⇒実際原価、貸方⇒標準原価で表記する方法。
仕掛品勘定は貸借ともに標準原価。
一般的にインプット法はシングルプラン、アウトプット法はパーシャルプランで表記する。

(アウトプット法－シングルプラン)



(アウトプット法－シングルプラン表記)
投入データは実際で記載しておき、完成データを作るときに原価差異を把握する方法。
仕掛品勘定は貸借ともに標準原価

(アウトプット法－パーシャルプラン)



(アウトプット法－パーシャルプラン配法)
仕掛品a/cを借方⇒実際原価、貸方⇒標準原価で表記する方法。
仕掛品勘定は貸借ともに標準原価。
一般的にインプット法はシングルプラン、アウトプット法はパーシャルプランで表記する。

SHINが採用する方法